

あおりは新聞



(平成19年8月1日発行)

第 16 号

発行 介護老人保健施設
国立あおやぎ苑
リハビリテーション課
住所 国立市青柳 3-5-1
電話 042-526-5100

花火

夏真っ盛りです。夏は暑い！だからこそ身体も心も熱くなつて楽しめる遊びがたくさんあります。海水浴、山登り、旅行、お祭りに盆踊り、ひと夏の恋：色々な楽しみ方がありますが、老若男女関係なく昔から愛されている夏の風物詩と言えれば花火ではないでしょうか。

夏の夜空に大輪の花を咲かせる打ち上げ花火から、気軽に楽しめる手持ちのおもちゃ花火まで様々な種類があります。小さいけれど、火の線が散り、はかなく燃え尽きてしまいう線香花火は、夏の終わりを予感させ切ない気持ちになります。打ち上げ花火は夜空をいっぱい埋め尽くし、視覚から花火だけではなく爆音・振動と共に心を振るわせてくれます。

そもそも花火は中国に始まり、ヨーロッパで観賞用として作成されました。日本は十六世紀にヨーロッパから鉄砲と共に伝来されました。花火は火薬の持つ音や光の強さという特徴を使い「美しさ」を表現しています。一瞬の美だからこそ更に美しく、人々を感動させる。美の追求に花火師が没頭してきた結果、日本の花火は比類無き「美しさ」を手に入れました。どこから見ても円に見える、二重三重の円を描きながら色が順に変化していく打ち上げ花火の代表、菊花型割物花火。今では世界各国に日本の花火を輸出し、技術を伝えていっているそうです。

夏の夜の夢、日本の伝統の美「花火」を是非楽しんで下さい。

作業療法士 野沢綾子



特集

あおやぎチーム紹介

～部署紹介～

施設サービス計画課

今までケアマネジャー業務は各フロアで兼務で行っていましたが5月より施設サービス計画課として独立し、専任業務となりました。仕事の内容はケアプランの作成・認定調査及び調査の立ち合い、他施設への意見書作成や面接の立ち合い、また在宅復帰への援助などです。ふじ色のユニホームをみかけましたら気楽に声を掛けていただければ幸いです。

横山優美子

「今年5月に入職しました。皆さんの名前とお顔を早く覚えて楽しいお話をいろいろと出来たらいいなと思っています。見かけたら、ぜひ話しかけて下さいね。よろしくお願いします。」



谷本ノブ

「あおやぎ苑に入職して六年が経ち、この程看護課から異動致しました。今はパソコンの修行中で、操作に苦勞しておりますが、修得出来れば自宅で孫とのメールも出来るのでは、と夢みて日々頑張っております。」

園芸クラブ

夏の陽射しを浴び、たくさんの野菜や花が日々育っています。食べごろの野菜は料理クラブでもサラダに入れるなど、楽しんでいきます。



退職職員あいさつ

理学療法士 瀧 正裕
1年少々と短い期間ではありましたが担当させて頂きました利用者様には誠に感謝しております。一個人として多くの事に気づかされ、多くの点が線としてつながった様に感じました。我がままを通すために新たな試練に挑む事になりますが、多くの教えを更に活かし、決して志を崩さずに前に進みます。皆様のご多幸を祈ります。

グループホーム あおやぎの家

グループホームとは、認知症をおもちのお年寄りの方々9名が食事づくり・洗濯などの共同生活を送りながら、認知症状の改善や進行を遅らせお互い助け合いながら専門スタッフと共に、長年慣れ親しんだ自立した生活を送って頂くための家です。

グループホームあおやぎの家は、平成13年4月1日に開設しました。JR矢川駅から徒歩8分、甲州街道から少し入った閑静な住宅街にある木造二階建ての家です。

毎日、近くの公園に散歩に行ったり駅前まで買い物に行くなどのほか、入居者それぞれの希望に沿って映画やショッピングに、年に一回はご家族の方も含めて一泊温泉旅行に行くなど外出の機会を多く持っています。また地域のボランティアの方と食事づくりをしたり、地元の保育園とも交流を持ち運動会や演奏会を見に行ったりと地域を生活の場とし、医療と協力のもと、その人らしい生活が送れるようサポートしています。



建物外観



キッチン



玄関前



リビング

お問い合わせ先

〒186-0013 東京都国立市青柳1-19-16

電話番号 042-523-0302



今年のデイケア
夏祭りは7月25、26
日に行われました。

引き続き入所夏祭りは8月2、3、4日です。

たくさんの屋台や射的などのゲームで縁日の雰囲気を楽しめたことと思います。また、今年のよさこいは衣装を新調し、さらに振り付けは「高知県トラック協会」のご協力をいただきました。ますます熱のこもった踊りをご覧いただけましたか？



3階利用者様 作品

現在の私は多くの職員の方々に支えられてハビリを受けながら症状の回復に努めています。過去25年間は多くの学生と共に過ごしてきました。退職後はひっそり家族の一員として過ごしているなかで、脳梗塞にかかり不自由な日常生活を送らなければならぬ体になりました。始めは、この状態を不幸と感じていましたが、日々職員の皆さまの献身的で明るくやさしい対応に接し6ヶ月たった現在では楽しささえ感じられるようになりました。

私のこの感謝の気持ちをどう表現したらよいか考えあぐねていましたが、笑顔で皆さんに接することが、私の出来ることではないかと思っております。これからもよろしくお願いたします。

感謝

通所利用 平安座 資芳 様

利用者コーナー